

1 , ルアーについて

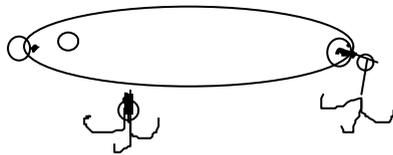
現在、釣りは趣味やスポーツとして幅広い年代の人たちから親しまれています。そんな中、スポーツフィッシングとして、餌による釣りから疑似餌（ルアー）による釣りが盛んに行われるようになってきています。

みなさんは、好きな釣りの道具は、買えば良い、壊れたらすぐに新しいものを買えばよいという感覚が芽生えてきているのではないのでしょうか。そこで、自分のイメージしたものを設計し、苦労して作ったルアーを使って、大自然の中で思い切り好きな釣りができたらいいなと考えました。

今回みなさんが製作するルアーは、大量生産されたものではなく、世界にたった一つしかないオリジナル作品となるでしょう。他の人が形や色のまねはできても、絶対に同じものは作れないのが、ハンドメイドの良さです。これこそがものをつくる楽しさ、技術科の「ものづくり」の原点となるでしょう。そして、ハンドメイドのルアーを使って友達同士で釣りに行き、釣れたときの楽しさ、釣ることのできなかつた悔しさを知る、この体験・経験が生活の中で生かされる技能を身につける第一歩となるのではないのでしょうか。あなたも、ハンドメイドルアーの楽しい世界をぜひ体験してみましょう。

入門編 ペンシルベイトの作り方

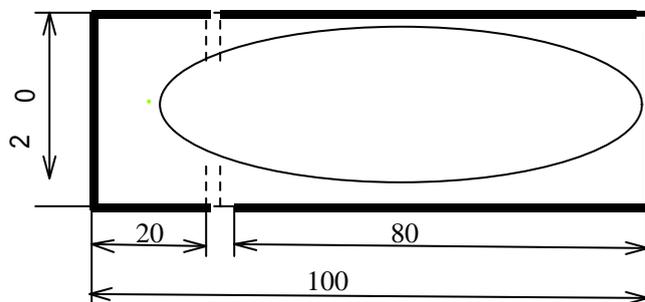
(1) ペンシルベイトについて



ペンシルベイトは、シンプルな形をしており、取り付けるアクセサリーの少ない、作り方が簡単な入門的なルアーである。しかし、その形やおもりの付け方によりバランス調整が難しく、動き方が異なるものになってしまう。これがペンシルベイトルアー製作の楽しさである。

製作工程

1 , 作りたいルアーのイメージをコンピュータで描いてみましょう。



2 , 材料・工具の用意

(1) 道具の選択について

- ・ 切削するための道具として荒削りには、小刀を使用します。また、仕上げには、カッターナイフを主に使用します。
- ・ 小刀については、よく切れるものを使用しましょう。
- ・ カッターナイフについては、刃先を折って新しいものにしましょう。

(2) 木材の選択について

木材は、特に指定はありませんが、節や腐りのあるものは製作に不適です。選ぶ際には気をつけてください。また、できるだけ均一な材料を選びましょう。今回、紹介するのは、初心者が簡単に製作ができる入門編ということでラワン材を使用することにしました。

<ラワン材の特徴について>

- ・ ある程度比重があり、浮力のある材料である。
- ・ 加工が比較的しやすいが、逆目がたちやすいので切削をする場合の木目の見方や小刀の使い方を体験的に学習できる。
- ・ 道管が大きく、目止めの大切さを知ることができる。
- ・ 購入がしやすく、値段が比較的安い材料である。

3 , 製作手順

(1) 設計について

- ・ 初めてルアーをつくる際には、安全面を考えて、長さは80 mmぐらいが適当です。大きくつくる方が安全ですが、使用しにくい面があります。また、手で持つ部分が高い程、作業がしやすいので調節してみましょう。
- ・ 製図では、コンピュータを使用すると、曲線や色が容易になり、リアルな設計図が描けます。

(2) 材料取りについて

<けがき>

角材の中心に印を付けてください。丸く削る際の目安となります。

<のこぎりびき>

材料の切断は両刃のこぎりを使用します。持つ部分とルアーの切り込みは、胴つきのこぎりを使うとより正確にでき、仕上がりも美しいです。

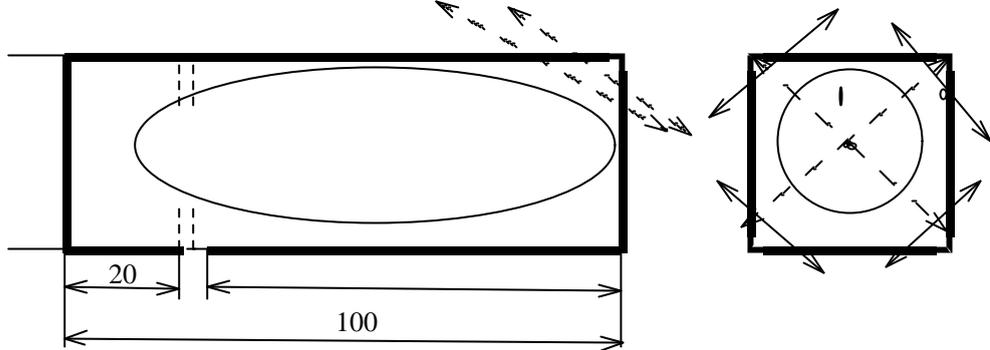
(3) 切削について

<ナイフによる荒削り>

まず、ナイフで荒削りをしますが、一度に深く削らず、木材を回転させながら削ると良いです。一部だけを削らず、バランスを考えて、鉛筆を削る感覚で削ってください。木目には、十分に注意する必要があります。もし逆目の切削になっ

てしまったら、ナイフを持ち上げるようにするとよいです。多少、削りすぎても
カッターナイフで修正が可能です。

こぐち面の切削には、特に力があるので手を切らないようにしましょう。



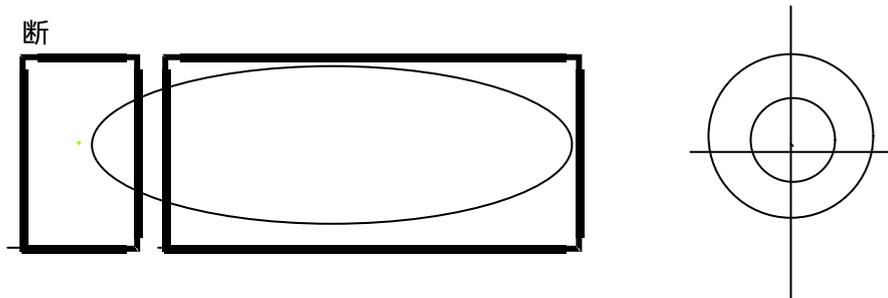
<カッターナイフによる仕上げ>

だいたい形が取れたら、表面の凹凸がなくなるように薄く削り形を整えます。
カッターナイフの切れが悪くなったら、こまめに刃を替えましょう。

(4) 形を整える

- ・ #180 ~ #240 でやすりがけをします。表面の凹凸がなくなるまできれいに削ります。手のひらにやすりを持ち、まわすようにやすりをかけるときれいにバランスのよく仕上がります。
- ・ やすりがけは、カッターの切り跡がなくなるまでよく削りましょう。目安としては、表面が白くなるまで行いましょう。

(5) 切断



- ・ 切断面が平らになるようにしましょう。

(6) おもり (ガン玉: 1号) の埋め込み

ラワン材は道管が太いので、接着剤がしみ込まないように、やすりがけをしっかりと行い、目止めをしましょう。

本体におもりを埋め込み、切り口に接着剤を塗りしっかりと接合しましょう。

(7) 目止め

プラスチックモデル用パテを木材に薄く塗り、乾燥させます。白く変色した

ら、乾燥が終了です。乾燥の目安は20分程度です。

乾燥が終了したら、#800の紙やすりで木材の表面が見えてくるまでやすりけをしましょう。

(8) 尾部のカップとヒートンの取り付け

ラジオペンチを用い、接着剤がある程度乾いた時点でカップとヒートンをつけましょう。隙間がある場合は、パテで隙間を埋めましょう。

ヒートンの先に針金をつけておくと、塗装の時の持ち手になります。

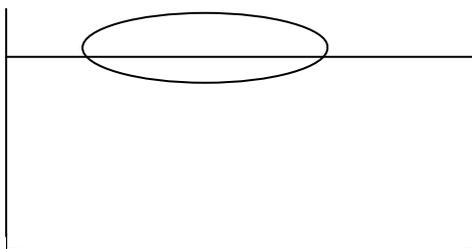
(9) 塗 装 (下塗り)

白の水性スプレーで、2～3回塗りましょう。プラスチックモデル用のサーフェイサーを使うと本塗りが美しくなります。均一に塗れるように針金を持って回しながら、作業をしましょう。均一に繰り返し塗ることで、厚い被膜ができます。

(10) バランス調整

水に浮かべて、実験をします。下になる方を腹にします。背になる方に印を付けてください。本塗りの際に背の部分と腹の部分の色分けをするために必要になります。また、腹部のカップとヒートンをつける際に大切な作業となるので必ず行いましょう

バランスによってルアーの動き方が異なります。動き方を考えて、カップ、ヒートンをつけることが必要になります。カップの付け方は2種類あります。自分の使用する目的に合わせて取り付けてください。



あまりにも尾部が、軽い場合にはおもりをつけます。

(尾部が軽いと水面で跳ねてしまいます)

のようにつけると見た目は、良いです。欠点として後ろの針とぶつかることがあります。

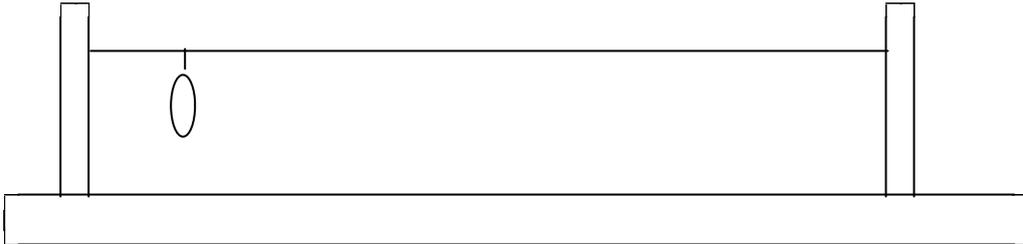
のようにつけると針が固定され、後ろの針とぶつかることはありません。欠点としては、見た目が少しよくありません。

(11) 本 塗 り

下塗りと同じ要領で行います。十分乾燥させてから、3～4回繰り返して塗装してください。塗料は、ラッカー系の塗料を用います。換気には、十分に注意しましょう

< 乾燥するための道具 >

廃材で下の図のようなルアーをかける道具をつくと乾燥がしやすいです。



4 , スイミングテスト

ルアーが完成したら、スイミングテストを実施してみてください。できれば、腹部のカップとヒートンを付けた時点（本塗り前）で実施することが望ましいです。思うようなアクションをしない場合、もう一度バランスを調べる実験をしてみてください。腹部のヒートンとカップの位置やおもりの量を調節して自分の理想の動きに近づけてください。

繰り返しスイミングテストを行うことでルアーの特徴がわかるようになります。

5 , 目（アイ）の取り付け

ルアーが理想の動きになったら、ルアーに目（アイ）を取り付けます。アイは、いろいろな種類のものが市販されていますが、今回は、値段が安いシール式のものを使用しました。アイの位置によってルアーの表情が異なります。自分のイメージにあった表情になるようにアイを取り付けてください。アイは、しっかりとルアーに接着してください。アイがとれてしまうとどんなによい動きをしても釣れないようです。アイをとれなくするために瞬間接着剤を用いるとよいです。また、アイを取り付けた後、ニス塗るとアイがとれなくなり、ルアーの色を長持ちします。時間があったらニスを塗ってみましょう。